

国語（現代の国語・言語文化）

（1）国語学習の目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（知識・技能）他者とのかかわりの中で伝え合う力を高める。（思考力・判断力・表現力）言葉のもつ価値への認識を深め、言語感覚を磨き国語を尊重して能力の向上を図る態度を養う。（学びに向かう力）

（2）学習分野別の目標

国語の学習分野は「現代の国語」と「言語文化」に分かれます。シラバスを確認してください。

（3）留意事項

日常生活で国語力を鍛えることも大切にしていきましょう。

○幅広く本を読み、語彙を増やしつつ、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしよう。

○新聞・雑誌・テレビなどから情報・問題を読み取り整理して、自分の意見を構築しよう。

○自分の考えや意見を文章にまとめたり、友人と論じ合ったりすることで、伝え合う力を高めよう。

（4）最後に

現代社会で求められていることを簡潔に述べるならば「自分で考え、他者と協働しながら課題を解決していく力」と言えるでしょう。情報を読み取りまとめる能力やテキストと自分の経験を結びつけて意見を述べたり書いたりする能力など、それらには国語力が深く関係します。そしてまた、他者と協働するためには、話す・聞く（＝コミュニケーションする）ことが必要であり、これにも国語力が深く関係します。授業を聞いて「覚える」だけではなく、自分の頭で「考え」、積極的に他者と「協働する」という、主体的な姿勢を絶えず意識して本物の国語力を身につけていきましょう。

国語（現代の国語） 学習目標・学習方法（学習内容は後掲のシラバスを参照すること）

1 学習目標

○ 主に論理的な文章にかかる学習目標

（1）文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。

（2）資料から必要な情報を選択したり、主題や要旨を読み取ったりして、文章の内容を自分の言葉でまとめる力を身につける。

（3）論理の構成や展開を工夫し、自分の考えを文章にまとめ、自己評価や相互評価を通して、自分の表現力をより豊かにする。

○ 主に文学的な文章にかかる学習目標

（1）文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。

（2）人物の特徴や心情、書き手の意図などを捉え、文章全体の内容を把握して自分の言葉でまとめる力を身につける。

（3）文章や他者との交流を通して新たな考え方、自分とは異なる意見などと出会い、自分の考えを発展・深化させ、心を豊かにする。

4 学習方法

予習 スキマ時間を有効活用！	・漢字テストの対策として漢字練習をする。 ・教科書の本文を一読して、語句の意味調べを行う。
授業 自分の頭で考えることが大切！ 周りの人と話し合うことも自分の力になる！	・まずは教科書の本文を読んで… 注目すべき表現をマークする。 筆者の主張（評論）、心情描写（小説）に線を引く。 ・本文の重要表現や要旨、主題を確認していく。 ・様々な問いや活動に積極的に取り組む。

復習 振り返ることで、知識・理解が定着！	・注目すべき表現を確認しながら教科書の本文を読み、要旨や主題を確認し、自分の言葉でまとめる。
課題 自分の力で取り組み、応用力を身につけよう！	・定期的に出された課題に自分の力で取り組む。(答えを写すのではなく自分で考えて解く。) ・答え合わせの際には解説をよく読み、解き方の方法や考え方を理解する。 ・提出期限までに必ず提出する。

5 その他

- ・「表現」の学習については、授業の進度を考慮しながら小論文の指導と合わせて行う。
- ・毎授業「漢字練習用テキスト」を用いて小テストを行う。
- ・「現代文問題集」を定期的に提出、評価対象とする。考查と課題テストの範囲に入る。

国語(言語文化) 学習目標・学習方法 (内容は後掲のシラバスを参照すること)

1 学習目標

○ 主に文学的な文章にかかる学習目標

- (1) 文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。
- (2) 文章や他者との交流を通して新たな考え方、自分とは異なる意見などと出会い、自分の考えを発展・深化させ、心を豊かにする。

○ 主に古文にかかる学習目標

- (1) 表現の特色を読み味わいつつ、古文への関心を深める。
- (2) 語句の意味や文法事項を理解し、作品の要旨や内容を読み取る力を身につける。
- (3) 古文に描かれた人物や情景、心情などについて感じたことや考えたことを文章にまとめたり、話し合ったりすることで、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。

○ 主に漢文にかかる学習目標

- (1) 漢文特有のリズムや表現の特色を読み味わい、漢文への関心を深める。
- (2) 語句の意味や文法事項を理解し、作品の要旨や内容を読み取る力を身につける。
- (3) 漢文に描かれた思想や感情、考え方などについて感じたことや考えたことを文章にまとめたり、話し合ったりすることで、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。

4 学習方法

予習 自分の力でやることで、語句の意味や文法事項・現代語訳の仕方が身につく！ スキマ時間を有効活用！	・小テスト対策として古文単語を覚える。 ・本文を読み、わからない語句の意味や文法事項を調べる。 ・古典では、本文に文法事項を書き込み、現代語訳を書く。わからない所には () をつけて空けておく。 ・漢文では、本文を元に書き下し文を書き、現代語訳を書く。わからない所には () をつけて空けておく。
授業 周りの人と話し合うことも自分の力になる！	・語句の意味や文法・句形事項を確認し、覚えつつ、現代語訳を行う。 ・内容を確認しながら、情景や登場人物の心情を考える。 ・様々な問いや活動に積極的に取り組む。
復習 口に出したり、書いたりして何度も復習しよう！	・小テストで覚えていなかった古文単語を覚え直す。 ・語句の意味や文法・句形事項を確認して覚え直したり、演習問題に取り組んだりする。

課題 自分の力で取り組み、応用力を身につけよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に出された課題に自分の力で取り組む。 ・答え合わせの際には解説をよく読み、考え方や文法事項などを理解する。 ・提出期限までに必ず提出する。
------------------------------------	---

5 その他

- ・毎授業「古文単語学習テキスト」を用いて小テストを行う。
- ・古文・漢文の「問題集」を定期的に提出、評価対象とする。考査と課題テストの範囲に入る。

現代の国語 別表

		月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	
		単元	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
領域	A: 話す・聞く20~30 B: 書く30~40 C: 読む10~20		C	B	B	A	A	B	A	B	C	B	
指導事項	指導時数		6	7	7	6	7	6	7	5	6	5	
知識・技能	言葉(1)の特徴や使い方	ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○			○						○	
		イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○	○					○			
		ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。								○		○	○
	情報(2)の扱い方	エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を揃すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○		○						○		
		オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。	○	○			○						
		カ 比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。								○			
		ク 推論の仕方を理解し使うこと。					○						
	文我(3)の言語	ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。					○						
		イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。				○							
		ウ 推論の仕方を理解し使うこと。					○						
エ 情報の妥当性や信頼性の時々の仕方について理解を深め使うこと。						○							
オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。						○		○					
思考力・判断力・表現力	話A 話す・聞く	ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。					○						
		イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。			○	○			○				
		ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。				○							
	書B 書く	エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。				○							
		オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。										○	
		ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。									○		○
		イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。		○	○								○
	読C 読む	ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。		○	○					○			○
		エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。								○			○
		ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。	○					○	○			○	
イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。						○				○			
教材		き「生きもの」として生きる	究水の東西・「間」の感	羅生門	ものごと	フエアな競争	章法を律読の改比正に関する文	鏡	る日資料を労読勉み比べる関	然ロリンソンの人間と自	文・き書社方	書に基礎レツス意見	

言語文化 別表

			月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	
			単元	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
指導事項			指導時数	6	7	7	7	6	6	6	7	6	6	
知識・技能	言葉の特徴や使い方 言(1)	ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○				○							
		イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。					○							
		ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○		○						○			
		エ エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。												
		オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。											○	
		オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。										○		
	我が国の言語文化に対する事項 我(2)	ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。												
		イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。			○				○		○			○
		ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。							○		○			○
		エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。	○	○	○	○								
		オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。	○											○
		カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。											○	
思考力・判断力・表現力	書くこと 書B	ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。					○					○		
		イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。							○			○		
	読むこと 読C	ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。						○				○		
		イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。					○			○			○	
		ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。					○					○		
		エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。						○		○	○			
オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	○	○									○			
教材				古文の学習 絵仏師良秀	漢文の学習 訓読に親しむ	なよ竹のかぐや姫	東下り	漁夫の利 鮎足	丹波に出雲といふ所あり	先従隗始	藝一つのうへメルヘン 一つのうへメルヘン	門出 帰郷	送元二使安西・静夜思・春望	

令和6年度シラバス【地理総合】

長野県伊那北高等学校

科目	地理総合		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科 理数科
使用教科書	高等学校新地理総合 (帝国書院)		副教材等		新編地理資料2024(とうほう) 地理総合演習ノート(啓隆社)					
学習の目標	地理に関わる諸事象に関して、位置や分布、場所などに着目した特色や相互の関連、防災、地域や地球的課題への取組等を理解する。また、地図や地理情報システム等を用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、それらを基に地理的な課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、説明することができる力を養う。									
具体的な取組み	現代世界の地理的事象に対する関心と問題意識を高め、課題解決の方向性について考察する。地図や地理情報システム等を用いて、情報の収集、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	1.位置と時差 2.地図 3.国家の領域 4.グローバル化	地図や地理情報システム等の活用を通して、現代世界の地理構成に着目し、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察・表現できる。	(1)世界各地の季節変化や時差等を、経緯度との関係で捉える。(2)地図の種類や表現の特徴を理解し、用途に応じた役割を考察する。(3)国家の位置と領域について理解し、領土問題の背景と解決方法を考察する。(4)統計等を用いてグローバルな結びつきの変化を捉える。			地理情報システム(GIS)の活用や、統計資料の読み取り、説明する機会を設ける。	15			
第1回考査										1
6 7 8 9	5.地形と生活 6.気候と生活	生活文化と自然及び社会的条件との関わりに着目し、多様性や変容の要因を多面的・多角的に考察・表現できる。	(5)山地や河川、海岸の地形の特徴を理解し、その利用等が自然的・人為的要因で変化していることを捉える。(6)各気候区における気候要素の特徴の違いと、それが生活や文化に与える影響を考察する。			写真や模式図、また地図や気温図を読み取り、説明する機会を設ける。	15			
第2回考査										1
9 10 11	7.気候と生活 8.自然環境と 防災	防災と自然及び社会的条件との関わりに着目し、自然災害への備えや対応等を多面的・多角的に考察・表現できる。	(7)各気候区における気候要素の特徴の違いと、それが生活や文化に与える影響を考察する。(8)自然災害が発生するメカニズムを理解し、被害軽減に向けた取り組みを具体的に考察する。			写真や模式図、ハザードマップを活用し、災害時にとるべき行動について考察する機会を設ける。	15			
第3回考査										1
12 1 2	9.地球的課題 と国際協力	地球的課題の背景や解決に向けた方向性について、多面的・多角的に考察・表現できる。	(9)地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性を理解し、持続可能な地球にするための解決法を具体的に考察する。			主題図や統計、グラフを読み取り、課題について把握する機会を設ける。	15			
第4回考査										1
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	地理に関わる諸事象に関して、世界的生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組み等を理解している。		地理に関わる概念の活用や、地図や地理情報システム等を用いた様々な情報の収集を行い、地理的な課題の多面的・多角的な考察を行うことができる。			知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。				
評価方法	4回考査で基礎的・応用的な問題を課し知識・技能の定着を見定める。		授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。			グループ学習、質疑応答、質問などで主体的に取り組む態度から判断する。				

令和6年度シラバス【 歴史総合 】

長野県伊那北高等学校

科目	歴史総合	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	明解歴史総合 (帝国書院)	副教材等	新詳歴史総合(浜島書店) 明解歴史総合ノート(帝国書院) WinningCOM.-PASS 歴史総合の整理と演習(とうほう)						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の歩みを探り、自国史と世界史を一体として、歴史を理解する。 ・現在の世界の課題を見出し、歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版、資料を活用し近現代を中心とした歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容				備考	時数	
4	2部1章 江戸時代の日本 と結びつく世界	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀の日本やアジア、ヨーロッパの結びつきや、欧米での革命が社会にもたらした変化について理解させる。 ・諸資料を活用し、課題の追究や、解決に向けた活動を行う。 	1節	アジアの中の江戸幕府	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	14			
5	2章 欧米諸国に おける近代化		2節	成熟する江戸社会					
			3節	清の繁栄と結びつく東アジア					
			4節	アジア・アメリカに向かうヨーロッパ					
			1節	イギリスの革命とアメリカの独立					
		2節	フランス革命 ～ヨーロッパ近代の幕開け						
		3節	フランス革命の影響と国民意識の芽生え						
		4節	産業革命で変わる社会						
		5節	イギリスの繁栄と国際分業体制						
第1回考査							1		
6	3章	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米での革命を踏まえ、国民国家の形成やナショナリズム、産業革命について理解させる。 ・列強のアジア進出の影響や、その後の国際情勢を理解させる。 	1節	1848年～近代ヨーロッパの転換点	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	15			
7	近代化の進展と		2節	イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化					
8	国民国家形成		3節	アメリカの拡大と第2次産業革命					
9	4章 アジア諸国の 動揺と日本の 開国		4節	帝国主義と世界の一体化					
			1節	「西洋の衝撃」と西アジアの変化					
			2節	南・東南アジアの植民地化					
			3節	ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争					
			4節	黒船の来航と日本の対応					
			5節	新体制の模索と江戸幕府の滅亡					
	5章 近代化が進む		1節	新政府の誕生					
			2節	近代国家を目指す日本					

	日本と東アジア		3節 日本と清の近代化と日清戦争 4節 列強の中国進出と日露戦争 5節 日露戦争が与えた影響		
第2回考査					1
9 10 11	3部1章 第一次世界大戦 と日本の反応 2章 国際協調と大衆 社会の広がり 3章 日本の行方と 第二次世界大戦	・第一次世界大戦 が世界にもたら した影響と、日本 を含む各国の、そ の後の反応や、影 響について理解 する。 ・帝国主義が世界を 席卷していく様 相と、世界恐慌や ファシズムの影 響などについて 理解する。	1節 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2節 総力戦となった第一次世界大戦 3節 ロシア革命と大戦の終結 1節 ヴェルサイユ体制の成立 2節 東アジアの民族自決の行方 3節 中東・インドの民族自決の影響 4節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6節 日本における大衆社会の形成 1節 世界恐慌が与えた影響 2節 ファシズムの台頭と拡大 3節 政党政治の断絶と満州事変 4節 日中戦争の始まり 5節 第二次世界大戦の展開 6節 戦局の悪化と被害の拡大 7節 第二次世界大戦の終結とその惨禍	教科書や資料 集の図やデー タを確認しな がら、理解を 深める。 グループでの 意見交換や調 べ学習を行 う。	16
第3回考査					1
12 1 2	4章 再出発する世界 と日本 4部1章 冷戦で揺れる 世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化の なかの世界と 日本	・戦後の現代の世界 情勢や国際秩序 の形成と日本の 復帰などを俯瞰 的に理解させる。 ・冷戦構造下におけ る世界の緊張や、 高度情報通信、 食料や人口問題 など、現代社会を 取り巻く諸課題 について理解・考 察させる。	1節 戦後の新たな国際秩序 2節 冷戦の始まり 3節 日本撤退後の東アジア 4節 日本の改革と独立の回復 1節 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2節 冷戦下における日本の復興 3節 第三勢力の形成と脱植民地化 4節 中東戦争とパレスチナ問題 1節 揺らぐアメリカと先進各国の変化 2節 「経済大国」日本の模索 3節 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4節 イスラーム復興と冷戦への影響 1節 冷戦の終結と変わる世界構造 2節 冷戦の終結が与えた世界への影響 3節 超大国アメリカと中東情勢 4節 国際環境の変化と日本 5節 グローバル化による国際社会の変容	教科書や資料 集の図やデー タを確認しな がら、理解を 深める。 グループでの 意見交換や調 べ学習を行 う。	15
第4回考査					1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	近現代の世界の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の世界の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	近現代の世界の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価 方法	4回の考査で基礎的・応用的な問題を課し、知識・技能の定着と発展性を見定める。	授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。	グループ学習・質疑応答・事後の質問などで主体的に取り組む態度から判断する。

数 学

(0) はじめに

「数学なんて社会に出て使う機会なんてないんだから勉強するだけ無駄」。今までに何度もこの手の質問を（抗議の意も含めて）受けてきました。単刀直入に答えるならば「論理的な思考が身につくから」とチコちゃん（5歳）も言っております。もう少し詳しくいうと、数学を学ぶ本来の目的は「問題を整理して答えを導く事で論理的な思考を身に付ける」ことです。世間では数学とは「計算をして答えを出す」というイメージが多分にあるようですが、大事なことは計算することよりもその過程でいろいろな方面から糸口見つけて解決策を見出すことであると考えます。計算処理はコンピュータが人間より正確に速くしてくれますから。日常生活にせよ、仕事上のことにせよこの数学的思考は実はかなり多く活用されています。そういう意味でぜひ『数字に強くなる』べく数学を学ぼう。できれば社会にでた後も数学に対峙してほしいです。

(1) 学習の心構え

学習以外にもいえることですが、何事にも時間や手間をかけないとできるようになったり、うまくなったりはしません。基本から始めて着実に丁寧に正しく積み重ねていけば必ず力がつきます。すぐに結果や点数に結びつくことはほとんどありません。継続的に学習することが一番の近道です。

(0)と同じでよいことを書きますが、自力でじっくり考えることが大切です。ひとつの問いに対して「こうやればうまくいきそうだな」「この道筋でやってもだめだから違うやり方でやってみよう」とかが大切です。最終的に自力ではわからなかったとしてもその過程で「今自分が知っていることをフル活用していろいろ考えてみた」ということは必ず自分の力になります。時間には限りがありますが、自力で考えることを大事にしてください。いちばん良くないのは考えることなしに秒で解答例をみることです。

学習したことについて問題演習（レベルが高い問題も含めて）を積極的に行い、アウトプットの量を増やしましょう。一つの問いに対して答えに行きつくまでの道のり一つとは限りません。いろいろな道のり、いろいろな角度から考えることもとても大切です。問題演習をする際は、答えがあっていた場合でも別解があればそれも理解しましょう。考え方の武器が増えます。また互いに教え合う、考え合うことで自分では気づかなかった道筋や考え方が発見でき一人で学習するより互いの力を高めます。

(1) 学習の方法

毎日の授業を大切に、家庭学習を継続して下さい。授業は思った以上に早く進みますので予習をする習慣をつけるとよいでしょう。例えば、教科書をざっと読み、例や例題をノートに書きながら自分なりに理解し完璧でなくていいので、練習問題に取り組んでみてください。予習で理解できなかったところは授業で特に集中して聞いてください。その日に学習したことは必ず復習をし、内容の理解を確かなものとし問題演習を行いましょ。復習をすることで確実に定着します。数学が苦手だと感じる人は特に復習をきちんと行うとよいでしょう。疑問点や理解できない部分は放置せずに先生に質問をしましょ。

授業中や問題演習をする際のノートの使い方ですが、できるだけゆとりをもって説明や解答を書くようにしましょ。図やグラフを大きくことも大事ですし、後々自分で書き込みができるようにしておきましょ。また、授業用ノート、個人でやる演習ノート、テストや模試の間違い集約ノートなど用途に分けてノートを用意するとよいでしょう。

(3) 教材の使い方

- ・教科書・・・一番基本となるものです。書かれていることを丁寧に読みましょう。行間が省略されている場合は、省略部分を読み取ることも大切です。公式、例題、練習以外のところもきちんと理解することを意識してください。
- ・問題集 (クリアー・4STEP)・・・基本問題、応用問題の演習を繰り返し行います。土台作りのためにその日学習した部分は毎日やり、継続して繰り返し取り組んで下さい。定期的に提出してもらいます。
- ・チャート・・・問題の解法を確認、理解する。授業では扱わないが、大学入試では重要となる問題が多く掲載されています。例題を理解したあと練習問題に自力で取り組んでみましょう。発展的な内容もあるので積極的に目を通しましょう。長期休業中の課題にすることもあります。

(4) 成績の評価方法

定期考査の点数， Weeklyテストの点数， 提出物の内容と提出状況， 出欠状況

普通科【数学Ⅰ】

科目	数学Ⅰ	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分[96回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ⅰ	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅰ+A (参考書) チャート式 基礎からの数学 数学Ⅰ+A						
学習の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について学習し、中学校までに養われた数学的に考える資質・能力を一層伸長させる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	数と式	計算力を身に着け、数の体系を理解する。	式の計算、実数、1次不等式				18		
5	集合と命題	集合と命題の概念を理解し、活用する。	集合と命題				8		
6	2次関数	2次関数とそのグラフを活用する。	2次関数とグラフ、値の変化、 2次方程式				13		
第1回考査							1		
6 7 8 9	2次関数		2次不等式 【数学A】実施				8		
第2回考査							1		
9 10 11	図形と計量	三角比の性質を理解し、活用する。	【数学A】実施 三角比、三角形への応用				19		
第3回考査							1		
12 1 2	データの分析 数学Ⅱ	データの整理と分析・仮説検定。	データの分析 下記 【数学Ⅱ】参照				9 (10) (9)		
第4回考査							1		
3									
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	数と式、2次関数、図形と計量とデータの分析における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、事象の数学化・数学的解釈・数学的表現や処理をする技能を身に付けている。		数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を用いて分析し			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。			

		て解決、またその過程を考察する力を身につけている。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問

普通科【数学A】

科目	数学A	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分[64回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学A	副教材等	(問題集) クリアー数学 I + A (参考書) チャート式 基礎からの数学 数学 I + A						
学習の目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質(数学と人間の活動の中の一分野)について学習し、「数学 I」の内容などを補完するとともに、事象を数学的に考える資質・能力を養い、数学のよさを認識できるようにする。								
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6			6月まで【数学 I】を学習						
第 1 回考査									1
6 7 8 9	場合の数と確率 図形の性質	規則的な数え方と確率を理解し、活用する。 平面図形の性質を理解し、活用する。	場合の数、確率、条件付き確率、期待値 平面図形				22 11		
第 2 回考査									1
9 10 11	図形の性質 整数の性質	空間図形の性質を理解し、活用する。 整数の性質を理解し、活用する。	空間図形 約数と倍数、互除法、活用 12月まで【数学 I】を学習				5 15		
第 3 回考査									1
12 1 2			下記【数学 II】を参照						
第 4 回考査									(1)

3				(9)
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見いだし論理的に考察する力、整数のもつ性質を理解し数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

普通科【数学Ⅱ】……数学Ⅰの中で実施

科目	数学Ⅱ	単位数	授業時間 [総時数]	55分[32回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ⅱ	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B (参考書) チャート式 基礎からの数学 数学Ⅱ+B					
学習の目標	高等学校数学の根幹をなす、「いろいろな式」、「図形と方程式」、「指数関数・対数関数」、「三角関数及び微分・積分の考え」という5つの内容については学習し、「数学Ⅰ」の内容を発展、拡充させるとともに、「数学Ⅲ」を学習する(選択する場合)の基礎づくりを行う。							
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 							
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数		
4 5 6			12月まで【数学Ⅰ】【数学A】を学習					
第1回考査								
6 ~ 9								
第2回考査								
9 10 11								
第3回考査								
12 1 2	式と証明 複素数と方程式	整式、分数式の計算の理解と証明する。	式と計算、等式・不等式の証明 複素数、2次方程式の解、剰余の定理・			10 9		

		数の範囲を複素数まで拡張して活用する。	因数定理, 高次方程式		
第4回考査					1
3	図形と方程式	直線や円の式を理解し、活用できるようにする。	点と直線		7
評価規準	知識・技能	いろいろな式、図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
			等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	
評価方法		定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

理数科【理数数学Ⅰ】

科目	理数数学Ⅰ	単位数	4	授業時間 [総時数]	55分[128回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	高等学校数学Ⅰ、A	副教材等	(問題集) 4STEP 数学Ⅰ+A (参考書) チャート式 基礎からの 数学Ⅰ+A						
学習の目標	事象を数学的に考察し表現する基礎的な能力を養い、知識や技能などを的確に活用する姿勢を身に付ける。また、「理数数学Ⅱ」、「理数数学特論」への基礎を築く。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	数と式	計算力を身に付け、数の体系を理解する。	式の計算, 実数, 1次不等式				15		
5	集合と命題	集合と命題の概念を理解し、活用する。	集合と命題				10		
6	2次関数	2次関数とそのグラフを活用する。	2次関数とグラフ, 分数関数, 無理関数 値の変化, 2次方程式				14		
第1回考査						2			

6	2次関数		2次不等式		8	
7	場合の数と確率	規則的な数え方と確率を理解し、活用する。	場合の数、確率、条件付き確率、期待値		18	
8	図形の性質	平面図形の性質を理解し、活用する。	平面図形		11	
9						
第2回考査					2	
9	図形の性質	空間図形の性質を理解し、活用する。	空間図形		6	
10	整数の性質	整数の性質を理解し、活用する。	約数と倍数、互除法、活用		14	
11	図形と計量	三角比の性質を理解し、活用する。	三角比、応用		18	
第3回考査					2	
12	データの分析	データの整理と分析をする。	データの分析		8	
1			【理数数学Ⅱ】へ			
2						
第4回考査						
3						
評価規準	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	思考・判断・表現	事象を数学的に捉え、論理的・統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探求しようとしている。
	評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問		

理数科【理数数学Ⅱ】

科目	理数数学Ⅰ	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分[32回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	高等学校数学Ⅱ	副教材等	(問題集) 4STEP 数学Ⅰ+A (参考書) チャート式 基礎からの 数学Ⅰ+A						
学習の目標	事象を数学的に考察し表現する基礎的な能力を養い、知識や技能などを的確に活用する姿勢を身に付ける。また、「理数数学特論」への基礎を築く。								
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6			12月まで【理数数学I】を学習		
第1回考査					
6 ~ 9					
第2回考査					
9 10 11					
第3回考査					
12 1 2	式と証明 複素数と方程式	整式、分数式の計算の理解と証明する。 数の範囲を複素数まで拡張して活用する。	式と計算、等式・不等式の証明 複素数、2次方程式の解、剰余の定理、 因数定理、高次方程式		12 12
第4回考査					
3	図形と方程式	直線や円の式を理解し、活用できるようにする。	点と直線		6
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	事象を数学的に捉え、論理的・統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探求しようとしている。		
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問		

理科（物理基礎・生物基礎・理数物理・理数生物）

高校の理科は物理・生物・化学・地学の4科目に分かれます。本校では1年次に普通科は物理基礎・生物基礎を学び、理数科は理数物理と理数生物を学習します。理数物理・理数生物はそれぞれ物理基礎と生物基礎の内容に加えて、発展的な内容も取り扱います。

授業では図説や問題集を利用しながら、物理・生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深めます。また、自然科学への興味・関心を高め、科学的に探求する能力や態度を培うために実験・観察も重視しています。

○ 学習の到達目標

☆ 物理基礎・理数物理

1. 講義、議論、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する
2. 自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探求する能力と態度・科学的な自然観を育成する。

☆ 生物基礎・理数生物

1. 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
2. 生物や生命現象に関心高め、観察や実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を養う。
3. 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象への関心を高める。

○ 物理基礎・理数物理の学習

物体の運動の法則とエネルギーとの関連を学びます。前半では、いろいろな運動の様子を一般化して表す方法を学びます。また、後半は物体が持つエネルギーとの関りを扱い前半で学んだ運動の様子との関りを考えます。

身近な生活の場面で起こる現象との関りが深い科目です。学んだ内容が関わる場面を関連付けながら学習してください。また、学習内容の定着のために問題演習にしっかりと取り組むように心がけてください。

○ 生物基礎の学習

生物の“共通性”である、代謝、遺伝子、恒常性について学びます。また、生物の“多様性”について、植物と生態系を題材に学習します。中学校と比べて、格段に詳しい内容を学ぶこととなります。学ぶ内容をきちんと理解することを心がけて、積極的な姿勢で授業を受けてください。

テストに向けては、用語の丸暗記ではなく、教科書を読み、内容をよく理解した上で重要語句や基本事項を覚えるようにしてください。自分がどれだけ理解できたかは、問題集で確認してください。

○ 学習内容と進度 (普通科 生物基礎)

科目	生物基礎	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	i版 生物基礎 (啓林館)	副教材等	センサー生物基礎(啓林館)など						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との連携を図りながら、生物や生物現象について理解する。 ・科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基礎的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 								
月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数				
4 5 6	生物の特徴 遺伝子とそ のはたらき	生物の特徴について身に着ける。生物の共通性を見出す。生物多様性について身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性と多様性 ・細胞 ・代謝 ・DNAの構造と遺伝情報 	負の指数は数学に関わる。 【実習】顕微鏡・ミクロメーターの使い方	12				
第1回考査					1				
6 7 8 9	遺伝子とそ のはたらき	遺伝子の構造とはたらきについて身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造と遺伝情報 ・DNAの複製 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報の発現 	【実験】体細胞分裂	12				
第2回考査					1				
9 10 11	ヒトの体の調 節	体液のはたらき、神経とホルモンの働きの基本を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性と体液 ・腎臓と肝臓 ・自律神経とホルモン 	【実験】心臓・腎臓・肺の観察	16				
第3回考査					1				
12 1 2	ヒトの体の調 節 植生と遷移 生態系とその 保全	体内を一定に保つ働きを総合的に学ぶ。免疫の仕組みを理解する。生態系のしくみ、人間生活との関わりを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性の維持 ・免疫 ・植生と遷移 ・生態系と人間生活 ・物質循環 	【実験】生態系における生物の多様性	20				
第4回考査					1				
評価規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査				

○ 学習内容と進度 (理数科 理数生物)

科目	理数生物	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	i版 生物基礎 (啓林館)	副教材等	センサー生物基礎 (啓林館) など						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探求するために必要な知識を身につける。 生物や生物現象に関して、観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考		時数	
4 5 6	生物の特徴 遺伝子とその はたらき	生物の特徴について身に着ける。生物の共通性を見出す。生物多様性について身につける	<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と多様性 細胞 代謝 DNAの構造と遺伝情報 			負の指数は数学に関わる。 【実習】 顕微鏡・マイクロメーターの使い方 【GW】 生物学の研究を行うにあたって必要なことを学ぶ		18	
第1回考査									1
6 7 8 9	遺伝子とその はたらき	遺伝子の構造とはたらきについて身につける。	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造と遺伝情報 DNAの複製 遺伝情報の分配 遺伝情報の発現 			【実験】 唾腺染色体の観察 【大学連携】 大学教授や大学生と生物学の実験やミニ研究を行う		24	
第2回考査									1
9 10 11	ヒトの体の調節	体液のはたらき、神経とホルモンの働きの基本を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液 腎臓と肝臓 自律神経とホルモン 			【実験】 心臓・腎臓・肺の観察 【実習・実習】 細菌培養を用いて生体維持システムを考察する		20	
第3回考査									1
12 1 2	ヒトの体の調節 植生と遷移 生態系とその 保全	体内を一定に保つ働きを総合的に学ぶ。免疫の仕組みを理解する。生態系のしくみ、人間生活との関わりを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性の維持 免疫 植生と遷移 生態系と人間生活 物質循環 			【実験】 体細胞分裂 【実験】 生態系における生物の多様性		30	
第4回考査									1
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。			自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査			発言・質問 実験レポート 実習の取り組み 定期考査			

○ 学習内容と進度 (普通科 物理基礎)

科目	物理基礎	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	改訂版新編物理基礎 数研出版		副教材等		『フォローアップドリル物理基礎(運動の表し方・運動方程式)、(仕事とエネルギー・熱)、(波・電気)』(数研出版編集部) 『リードα物理基礎、物理』(数研出版編集部)				
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との連携を図りながら、物理的な現象について理解する。 ・物理的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標		学習内容		備考(実験等)		時数	
4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	◆日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。◆身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。		速さと速度、瞬間の速度 速度の合成・相対速度 加速度 等加速度直線運動、グラフ読取 落下、投射 力とそのはたらき 力のつりあい 運動の3法則		重力加速度の測定 運動の法則		15	
5	第2章 運動の法則								
6									
第1回考査									
6	第1編 第2章 運動の法則	◆日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。		運動方程式 摩擦を受ける運動 圧力 空気抵抗 仕事、力学的エネルギー 力学的エネルギーの保存		力学的エネルギー		15	
7	第3章 仕事と 力学的エネルギー								
8									
9		第2回考査							
9	第2編 熱 第1章 熱と エネルギー	◆熱に関する現象を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、熱についての基礎的な見方や考え方を身につける。◆波に関する現象を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、波についての基礎的な見方や考え方を身につける。		温度と熱 熱量 熱量保存 仕事と熱 波の性質、縦波と横波 定常波 音 共振と共鳴		熱量の保存 気柱の共鳴		15	
10	第3編 波 第1章 波の性質								
11	第2章 音								
第3回考査									
12	第4編 電気 第1章 物質と電気	◆電気や磁気に関する現象を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、電気や磁気についての基礎的な見方や考え方を身につける。◆「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する		電気の性質、帯電 電流と電気抵抗 電気とエネルギー ジュール熱 電力量と電力 電流と磁場 交流と電磁波 エネルギーの利用 エネルギー資源と発電 SDGs		オームの法則 手回し発電機		15	
1	第2章 磁場と交流								
2	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギー利用								
第4回考査									
3									
評価 規準	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。			自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。			自然の事物・現象に関わり、見通しを持ってったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。		
評価 方法	小テスト 実験レポート 定期考査			実験レポート 定期考査			発言・質問、出欠状況 実験レポート 定期考査		

○ 学習内容と進度 (理数科 理数物理)

科目	理数物理	単位数	3	授業時間 [総時数]	55分 [96回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	改訂版新編物理基礎 数研出版		副教材等	『フォローアップドリル物理基礎(運動の表し方・運動方程式)、 (仕事とエネルギー・熱)、(波・電気)』(数研出版編集部) 『リードα物理基礎、物理』(数研出版編集部)					
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との連携を図りながら、物理的な現象について理解する。 ・物理的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 								
月	単元名	指導目標	学習内容	備考(実験等)	時数				
4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	日常に起こる物体の運動の概念や法則を理解し、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。	速さと速度、瞬間の速度 速度の合成・相対速度、平面運動 加速度、等加速度直線運動 落下、投射、斜方投射	重力加速度の測定	8				
5	探究	平均、分散など統計的手法	探究に必要な数学(統計)を学ぶ		1				
6	第2章 運動の法則	身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。	力とそのはたらき、力のつりあい 運動の3法則	運動の法則	7				
	探究	グループワークで問いを立てる 問いを検証する実験を考案する 検証実験の結果をまとめる 探究の実験計画を作成する	探究の基本を物理実験で学ぶ		6				
第1回考査					1				
6	探求 第1編 第2章	探究の実験計画を作成する	探究活動		4				
7	運動の法則	日常に起こる物体の運動の基本的な概念や法則を理解し、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。	運動方程式、摩擦を受ける運動 圧力、空気抵抗		7				
8	探究		探究活動	実験	4				
9	第3章 仕事と 力学的エネルギー		仕事、力学的エネルギー 力学的エネルギーの保存	力学的エネルギー	8				
第2回考査					1				
9	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	熱に関する現象の基本的な概念や法則を理解し、基礎的な見方や考え方を身につける。	温度と熱 熱量、熱量保存 仕事と熱	熱量の保存	7				
10	探究		探究活動	実験	2				
11	探究		探究活動	発表等	6				
11	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	波に関する現象の基本的な概念や法則を理解し、基礎的な見方や考え方を身につける。	波の性質、波の式、回折、干渉 縦波と横波、定常波 音、共振と共鳴	気柱の共鳴	8				
第3回考査					1				
12	探究 第4編 電気 第1章 物質と電気 探究	電気や磁気に関する現象の基本的な概念や法則を理解し、基礎的な見方や考え方を身につける	探究活動 電気の性質、帯電、流と電気抵抗 電気とエネルギー ジュール熱、電力量と電力 探究活動	オームの法則	3				
	第2章 磁場と交流		電流と磁場 交流と電磁波	手回し発電機	5				
1	第5編 物理学と 社会 第1章 エネルギー利用	「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活や科学技術と結びついていることを理解する	エネルギーの利用 エネルギー資源と発電 SDGs		5				
第4回考査					1				
3	探究		探究活動		5				
評価 規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。		自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価 方法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問、出欠状況 実験レポート 定期考査				

科目	音楽Ⅰ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	1	普通科 理数科	
使用教科書	MOUSAⅠ（教育芸術社）	副教材等	愛唱歌集（長野県高等学校音楽教育研究会）						
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間とのコミュニケーションを大切に、主体性・協働性を養うことができるようにする。 ・歌、楽器、ポップス、クラシック、楽典、世界の音楽など幅広い音楽を扱う。 ・単元ごとに発表会もしくはテスト（筆記または実技）を行う。 ・歌う、演奏するだけで終わるのではなく、楽曲について考えたり他者と考えを共有する活動もある。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6 7	・リトミック	・ポディーパーカッション ・リズムアンサンブル	・ビートを身体で感じ、表現することができる。	○	○	○	2		
	・歌の楽しみ	・ポップス、春の歌、夏の歌 ・校歌の練習	・季節の歌やポップス、校歌を伸び伸びと歌う。	○	○	○	4		
	・楽典	・音符、休符、拍子、音名 ・リズム創作	・西洋音楽の基本ルールを理解し、オリジナルのリズム譜を作ることができる。	○	○	○	4		
	・歌曲を歌おう	・イタリア歌曲	・外国語の歌曲を歌詞や構成を意識して歌うことができる。	○	○	○	5		
		・ドイツ歌曲 ・日本歌曲	・楽曲の構成を理解するとともに、日本語の響きを大切に歌う。	○	○	○	2		
	・キーボード（ピアノ）	・鍵盤楽器の基本的奏法 ・キーボードによるアンサンブル	・鍵盤楽器の基本奏法を理解し、演奏できる。	○	○	○	6		
	・鑑賞（クラシック）	・サンサーンス作曲「動物の謝肉祭」	・標題音楽や楽器による音色の違いについて理解できる。	○	○	○	4		
8 9 10	・合唱	・混声四部合唱 (合唱コンクールに向けた練習)	・合唱にふさわしい発声や、響きの合わせ方を意識しながら歌う。	○	○	○	4		
	・クラシックギター	・ギターの基本的奏法	・ギターの基本奏法を理解し、演奏できる。	○	○	○	6		
		・コードネームの学習	・コードネームの読み方、種類について理解できる。						
・鑑賞（ミュージカル）	・ミュージカル作品の鑑賞 (サウンドオブミュージック 他)	・ミュージカルナンバーの魅力を感じ、表現することができる。	○	○	○	5			
11 12 1 2	・歌の楽しみ	・秋の歌、冬の歌 ・ポップス ・ミュージカル、映画音楽の歌	・ジャンルによる曲の雰囲気の違いを味わいながら、楽しく歌う。	○	○	○	6		
	・作曲を体験しよう	・楽典の知識をもとにした初歩的な作曲	・拍子、音価などの知識を応用して、簡単なメロディを創作することができる。	○	○	○	4		
	・西洋音楽史	・バロック～近現代の作曲家と作品	・各時代の作曲家と代表的な作品について、理解できる。	○	○	○	4		
	・コンサートをつくろう	・クロスベンコンサートの企画 ・クロスベンコンサートの実施	・自身の演奏と共に、コンサートに必要な仕事を企画、準備し、実施することができる。	○	○	○	8		
	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
評価 規 準	①楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ②音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。		①音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ②音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	①音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしているか。					
評価 方 法	プリント課題 小テスト 実技テスト		小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み					

令和6年度シラバス【美術I】

長野県伊那北高等学校

科目	美術 I	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科 理数科
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)	副教材等	なし						
学習の目標	創造的な活動を通して、造形的な見方・考え方を養い、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。								
・具体的な 取り組み ・指導上の 注意点	○スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮する。 ○主題の生成から表現、完成に至る全過程を通して、自分の良さを発見し喜びを味わう。 ○造形要素の働きを理解する。 ○造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などを捉える。 ○アイデアスケッチで構想を練り、作品について批評し合う活動を取り入れる。								
月	題材・学習内容	学習のねらい・内容		指導目標			時数		
4 5 6	1 鉛筆デッサン ・遠近法、陰影法の学習 ・立方体・円柱を描く。	・デッサンにおける基本的な技法を学ぶ。道具の使用法、姿勢、観察眼を養う。		・形や空間を平面的に描くために必要な技術を、実践を通して習得する。			10		
第1回考査									
6 7 8 9	2 風景画の制作 ・遠近法、陰影法 ・3原色の学習 ・アクリル絵の具の表現	・遠近法・陰影法の技術を絵画制作に応用する。 ・色の仕組みを理解する。 ・絵画制作を楽しむ。		・知識や技術を応用し試行錯誤して画面を作り、絵画表現の面白さを感じる。			24		
第2回考査									
9 10 11	3 生活の中のデザイン —木のスプーン制作— ・道具のデザインをする ・材料の特性と加工方法を学ぶ。	・使う用途、場面を考えてデザインする。		・材料や用具の特性を生かす。 ・身近なデザインの面白みを感じられる感性を磨く。			20		
第3回考査									
12 1 2	4 抽象絵画・コラージュ	・複数の異なる要素を組み合わせることで生まれる視覚的効果を楽しみ、テーマを生成し表現する。		・素材を生かして表す。 ・テーマを生成し表現方法を工夫し、個性豊かに表す。			10		
第4回考査									

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める。意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	造形的な美しさ、創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し、構想を練り、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方、感じ方を深めることができる。	主体的に諸活動に取り組み、納得いくまで探求し作品を完成させることができる。感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育む。
評価方法	作品・レポート	作品・レポート・プレゼンテーション	制作に向かう姿勢・提出物・出席状況

1. 学習を始めるにあたり

美術の魅力は、課題に対する答えがみなさん一人ひとり違うところです。それぞれの課題では試行錯誤しながら最後まで完成させることが重要です。上手い下手ではなく、自分の心地よい表現を追求し作品にしてください。制作をすると、他の人の個性や自分の強みが見えてきます。

また、教室内だけではなく身近にある動植物、建物、広告、デザインなど、周囲の造形物にも観察の目を向け、自分の「わくわく」や「好き」を感じてください。

2. 美術系大学進学希望者へ

アートやデザインは我々の生活の至る所に関わっています。造形活動は人間の営みそのものと言っても過言ではなく、社会の中、人の心や体にふれています。美術の重要性は今後ますます高まり、混迷した現代社会の中で大切な視点を見つけだす役割もあります。活躍のフィールドはあらゆるところに用意されています。世界はあなたの表現やアイデアを待ち望んでいます。無限の広がり可能性のあるアートの世界へ旅してみましよう。

芸大・美術系大学の入試では学科試験に加え実技試験が科せられ、試験内容は大学や学部によって異なりますが、かなりのレベルが要求されます。良い作品を作れるようになるためにはエネルギーと時間を要するだけでなく、妥協しない美の追究と自分探しが不可欠となります。美術を進路の選択肢の一つと考えている人は早めに相談してください。まずは最初の一步を踏み出しましょう。

英 語

I. なぜ英語を学ばなければいけないのか？

*英語はコミュニケーション・ツール(道具)

世界で一番たくさん話されている言語は何語でしょう？これは人口が圧倒的に多い中国語です。では、なぜ中国語ではなく英語を学ぶのでしょうか？英語は世界共通語(Lingua Franca)と言われ、中国語が主に中国本土で話されているのに対して、英語は母語として話す人以外に第2、第3言語として話す人が多く、しかも全世界に話者がいるからです。交流をするにも、研究をするにも、仕事をするにも、旅行をするにも、英語でコミュニケーションができることは、他の言語よりも可能性を広げてくれるのです。何より、国も肌の色も民族も宗教も全然違う人に直接気持ちが「伝わった！」という経験は嬉しく、ワクワクします。英語を通じてのいろいろな国のいろいろな人との出会いが、きっとあなたの人生をもっと面白く、もっと豊かにしてくれますよ。

*Google 翻訳や DeepL などがあれば、もはや自分で英語ができなくてもいいんじゃない？

最近の翻訳アプリの進化はめざましく、かなりの速度と精度で英訳や和訳をしてくれます。それでは、英語を学ぶ意味はなくなってしまったのでしょうか？そんなことはありません。英語は日本語とは違う言語です。語順も違えば、発音も違います。また言語というのは、それを使う人たちの考え方、文化、生活、歴史、社会と密接なつながりがあります。異なる言語を学ぶということは、ちょっと大げさな言い方をすると、世界の別の見方や枠組みを手に入れることなのです。また、実際に自分で使った言葉が直に通じた、相手の言ったことがわかったというコミュニケーションの醍醐味は、機械まかせでは味わうことができません。

*英語の本、音楽、映画、SNS、ニュース、ホームページなどがわかる！

情報化社会と言われる現代。本、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、SNS、動画などのメディア、音楽や映画などのエンターテインメントにふれない日はありません。これまで皆さんがふれてきたもののほとんどは日本語で書かれたり、表現されたりしているものだったかもしれません。けれども、英語がわかるようになることで、理解できるものは何千倍にも広がります。同じ事件が日本とは違う角度で報道されていることに気付いたり、海外のアーティストが twitter や Instagram にあげたことをリアルタイムで読めたり、他の国の人とやりとりできたり、吹き替えや字幕なしで海外の映画が楽しめたりすることで、世界も広がるし、楽しみは何十倍にもなります。一度しかない人生、英語を道具にして、広い世界に飛び込んでみましょう。

II. 高校英語によろこそ！

あなたは見事伊那北高校入学しました。しかし、これはゴールではなく、スタートです。ここで燃え尽きてしまうわけにはいきません。伊那北に入学したあなただからこそ、勉強、部活、生徒会、恋愛、友情、ボランティア・・・さまざまなことに精一杯取り組んで、一度しかない高校時代を謳歌してほしいです。そのために、頑張る基本、毎日の生活の軸に置いてほしいことが勉強です。

高校では、英語は国語・数学と並んで量的にも質的にも大きな比重を占めています。1年次には**英語コミュニケーション I (週3時間)**、**論理表現 I (週2時間)**を全員が履修します。毎日英語の授業があります。また学ぶべき

言語知識(語彙・文法・構文)の幅広さは中学と比べものになりません。毎週、次第に速い進度で、大量の英文に触れることとなります。中学では何となくやって良い成績を残していたあなたも、家庭学習を怠り、授業を「てきとう」に受けていると、高校では英語があつという間に苦手科目となってしまいます。逆に、これまで苦手だったとしても、ここから毎日取り組むことで得意科目にすることも可能です。

いずれにせよ、3年間で学ぶ膨大な量を考えると、1年の最初からしっかり取り組んで基礎を身に付けていくことが必要です。先輩方に続き、未来の自分に向けて取り組んでください。

III. 英語学習の心構え

1. 毎日やる!!!

ほとんどの皆さんにとって英語は外国語です。どんなに短い時間でも毎日ふれ続けることが非常に重要です。

2. 授業中心の学習

伊那北高校は素晴らしい進学実績のある、伝統ある学校です。学習のしかたはさまざまですが、何といても授業が基本です。授業にしっかり参加せずに、「塾で聞けばいいや。」というのは本末転倒です。授業を学びの中心に据えて、授業を最大限活かすことを肝に銘じてください。伊那北の英語の授業にしっかりと取り組み、学んだことを確実に身につければ自ずと力はついていきます。

3. 小テストの活用

授業には、単語や暗唱例文の小テスト、リスニングの実践問題に取り組む時間があります。自分ひとりで、膨大な知識を身に付けていくことは大変ですよね。ですが、これらの小テストは少しずつ知識や技能を身に付けるのに役立つだけでなく、1年間を通して着実に勉強を進めるペースメーカーとなります。ぜひ真剣に取り組んでいきましょう。

4. 復習の徹底

英語は覚えること、身につけることが必要です。自分で復習したときに初めて、私たちは習ったことを身につけることができます。毎日の復習にしっかり時間をかけてください。何度も音声を聴いたり、音読したり、繰り返したりする「ずく」を惜しまないことが肝心です。人間は忘れる生き物です。授業でやったことは必ずその日のうちに復習し、できれば週末にも、そしてテスト前にも何度も復習してください。エビングハウスの忘却曲線を知っていますか？何度も繰り返すことで学んだことは記憶に確実に定着する、つまり本当に自分のものになるのです。

5. 英語は言葉！英語は実技科目！

日本語を読んで書いて使えるようになった人は皆さんの中にいませんよね。言葉は本来聞いたり話したりして身につけるものです。また、本で泳ぎ方を学んだだけでは泳げないのと同じように、英語は実際に声を出さないと話せるようにはなりません。またアスリートが何度も素振りや筋トレを繰り返して、自分の体に覚えさせたり、筋肉をつけたりするのと同様、英語も自分の口や耳を使って、身につくまで何度も繰り返すことが求められます。英語は実技科目—「自分」でどんどん使うことが重要です。

6. わからないものをわからないままにしない

わからないものをわからないままにしておくと、あつという間に置いて行かれてしまいます。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」と言います。わからないことがあったらすぐ先生や友だちに聞く習慣をつけましょう。

7. 与えられた課題は確実にに行い、提出期限を守り、確実に提出する

あなたが英語学習を進めるうえで、家庭学習が大切になります。というより、家庭学習で定着するので、そこをしっかりやるかやらないかで大きな差がついてしまいます。それぞれの時期にやる意味のある課題を出していきます。やるべき課題は先延ばしにせず、提出期限を守り、確実に提出する習慣をつけましょう。それは2年後の自分へのプレゼントになります。


IV. 学習の仕方

1. 毎日英単語ルーティン(家庭学習) ~1日の生活リズムの中に位置づけよう~

<使用教材>

*『必携英単語 LEAP Basic』『必携英単語 LEAP』(竹岡広信著・数研出版)

単語は英語の基本です。1週間に50個、毎日同じ50個の単語を7日間しつこく音声を聞いたり、声を出したり、書いたりして繰り返して身につけていきます。毎週単語テストがあります。声を出して単語50個を読むのにかかる時間は5分程度。毎日、基礎トレに加えて、やることリストから選んで15分は単語をやります。

易	やることリスト	やる内容
	☆基礎トレ	見出し語の音声を聞きながら、声を出す。(1周5分×数セット)
	☆苦手なものチェック	パッと意味がわからない(or 英語が出てこない)ものをチェックする 苦手なものだけ余分に繰り返す
	☆単語を書く	日本語を見て単語を書いてみる→苦手なものをチェック→声を出して何回か書いてみる→翌日以降、苦手なものだけ書いてみる
	★知識を増やす	注意事項などや熟語なども読んでみる
	☆用例(例文)	英語を見て、日本語にできるかチェックする→音声を聞きながら、声を出して読んでみる→日本語を見て英語が言えるかチェックする
	★用例を書く	日本語を見て、英文を書いてみる
	★用例を使ってみる	用例を参考にして、自分で英文を作ってみる
	難	

2. 英語コミュニケーション I …週3コマ

<使用教材>

- * New Rays English Communication I (いっぴな書店)
- * 『必携英単語 LEAP Basic』『必携英単語 LEAP』(数研出版)
- * 『Focus on Listening Basic 』(エミル出版)
- ・New Rays English Communication I Workbook Advanced (いっぴな書店) → 自宅学習用

1) 予習 英語コミュニケーション I の予習は不要です。予習にかかる時間を復習に使ってください。

2) 授業

- ① LEAP チェック…今週の単語を確認
- ②スピーキング/リスニング/ライティング活動
- ③単語 発音&意味チェック…必ず発音してみよう ペアでチェックも
- ④リスニング…本文を集中して聞いてみよう
- ⑤リーディング…本文を読んで、質問に答える→共有 その後、全体で読んで内容を確認
- ⑥音読…本文の内容がわかったところで、しっかり音読

ペアワーク・グループワークもするので、積極的に参加しよう。わからないところがないようにして、その日の授業を終えるようにしよう。わからないところは、どんどん質問してください(授業中、授業後、昼休みや放課後)

3) 復習←重要!!!

- ①その日に行った授業の範囲の単語を何度も声を出して繰り返して覚える。
- ②文章を読み直してみて、理解できているか、わからない(忘れてしまっている)箇所がないかを確認する。
- ③繰り返し音読をする。 1) Listen and repeat 2) すらすら読めるまで何度も読む 3) overlapping
4) shadowing 5) サイトトランスレーション ※音声を使ってやろう
- ④ワークブックで復習する。

3. 論理表現 I …週2コマ

<使用教材>

- ・FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店)
- ・FACTBOOK English Logic and Expression I Workbook Mastery (桐原書店) → 自宅学習用
- ・総合英語 FACTBOOK(参考書) (桐原書店) → 自宅学習用

1) 予習 授業で指示があったとき(次の授業で文法事項を扱うとき等)のみ、しっかり予習をしてください。

- ①まずは教科書の説明を読む。難しいところは参考書で詳しい解説を読んだり、動画を観たりして確認する。わからないところをはっきりさせておく。
- ②教科書の Drills の問題をノートにやる。自信があるもの、自信がないもの、わからないものを明確にする。

2) 授業 【大きな流れ】 Small Talk(会話)→Listening→Grammar→Speaking→Writing

- ①授業に積極的に臨む。(発言、大きな声で読み、考える、質問する、ペアワーク等)
- ②授業の中でわからないところをわかるようにする。(絶対にわからないままにしない！)

3) 復習

- ①授業でやった内容を思い出し、もう一度音声を聞いたり、声を出したりして繰り返す。
- ②文法問題などは間違えたところやあいまいなところを中心にやり直してみる。またワークブックをやる。

4. ALT の先生との授業について 積極的に英語を聴き、英語で話をしてみましょう。

- ★「難しい単語を使って英語を上手に話すこと」が正解ではありません。一番大切なのは、簡単な単語や表現でも、「相手の言うことをわかろうとし、自分の考えを伝えようとする」ことです。

V. 英語学習のロードマップ

料理をするときに食材がなければ何も作れませんね。英語はそれと似ていて、英語で読んだり書いたり聞いたり話したりしようと思っても、単語も文法も知らなければお手上げです。まずは分かる語彙(ボキャブラリー)や構文(文法のルールや決まり文句を踏まえた定型文)をたくさん自分の中にインプットすることを意識して、授業と復習、繰り返しを徹底しましょう。話したり書いたりするときに覚えたものをどんどん使ってみることも大切です。また、単語テストや Chapter ごとの小テスト、定期考査でやったことがしっかり身についているか確認し、年に3回ある総合学力試験で弱い分野を確認して、何が必要か考えて学習に取り組んでいきましょう。

Listening 大学入学共通テストでは、筆記試験とリスニング試験の点数比率は1対1(どちらも100点満点)です。授業でのリスニングに加え、家庭学習でも日常的に英語の音声を聴くことを習慣づけていきましょう。

文法・語法 正確に文を読み、きちんと自分の考えを伝えるには文法の知識が必要不可欠です。1年次は参考書の解説や動画で、細かいことよりも英語の持つイメージや文法のコア(中心)の部分をしっかり身につけましょう。

長文読解 英語コミュニケーション I、II、IIIで学習します。最終的には日本語に訳さずに理解できることを目指します。

作文・表現 授業での書く機会に積極的に取り組みましょう。はじめは苦勞していた先輩たちも、驚くほど上達しています。

高校で学ぶ範囲は無限ではない

英語には無限の広がりがあります。新しい単語や表現は日々生まれています。しかし、高校で学ぶべき英語の範囲には限りがあります。ですからあなたは3年間でつけるべき力を確実につけなければいけません。大丈夫、きっとできます。そのゴールに向かって、少しずつ、しかし確実に一緒に力をつけていきましょう。

令和6年度シラバス【英語コミュニケーションⅠ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	授業時間 [総時間]	55分 [96回]	学年	1	普通科	
使用教科書	New Rays English Communication I (いづな書店)	副教材等	New Rays English Communication I Workbook Advanced、Focus on Listening Basic (エミル出版) 他						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。 (2) 正しい英語の発音やリンキングの技能を身に付け、リスニング力の向上を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。 (4) 知的好奇心・関心に応え、それらをさらに広げる教材を選択し、意欲を刺激・喚起する。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 ～ 6	1 The Future Is Yours 2 The Power of Design	これから生きる力 スピーチ デザインの力	自分について考え短いスピーチをする デザインの魅力、役割、影響力について学ぶ	○ ○	○ ○	○ ○	23		
第1回 定期考査				○	○		1		
6 ～ 9	3 Plastic Is Everywhere 4 Orihime - A Vehicle of Your Heart 5 Satoko and Nada	問題解決の力 ポスター制作 癒しの力 プレゼンテーション 対話の力	環境問題について調べてまとめ、ポスター制作をする Orihimeの活用法を考えて発表する 異文化理解、他者との共生について学ぶ	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	21		
第2回 定期考査				○	○		1		
9 ～ 11	6 The Voice of Children 7 Human Habitation on Mars 8 A Loving Story	表現の力 探索の力 愛の力	貧困の現状について学び、考える 宇宙に関して調べてまとめる グループでセリフを考え、演じる	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	23		
第3回 定期考査				○	○		1		
12 ～ 2	9 Edo, the Resilient City 10 A Quality Education for All R1 The Window	歴史の力 教育の力 プレゼンテーション 物語	江戸の庶民のレジリエンスや文化から学ぶ 教育や学校をめぐる問題について考え、発表する 物語を味わう	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	21		
第4回 定期考査				○	○		1		
3	R2 The Tale of the Three Brothers	物語	物語を味わう	○	○		4		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている		授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等）	授業中に課された課題・プロジェクト、考査（英作文）、パフォーマンステスト		ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み					

令和6年度シラバス【論理表現Ⅰ】

長野県伊那北高等学校

科目	論理表現Ⅰ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	1	普通科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and ExpressionⅠ (桐原書店)	副教材等	総合英語FACTBOOK (桐原書店) FACTBOOK Workbook Mastery (桐原書店) 他					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として英語を学びながら世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5つの領域の活動を取り入れ、特に英語を話したり、書いたりする発信力を高めることを目指す。 (2) 中学の既習事項の定着を図り、日常的な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	0 Get to know more about your classmates	学校生活・自分の好きなこと	文型・文の種類・時制 ショートスピーチを作成し、発表しよう	○	○	○	12	
～	1 Smart home, smart city	科学技術と未来生活		○	○	○		
6	2 History and future of our town	地域社会・まちづくり		○	○	○		
第1回考査				○	○		1	
6	3 Preparing for a natural disaster	自然災害・防災	助動詞・受動態・不定詞 プレゼンテーションをしよう	○	○	○	12	
～	4 Water supporting our lives	水をめぐる問題		○	○	○		
9	5 Save food you can still eat!	フードロス問題		○	○	○		
第2回考査				○	○		1	
9	6 How can we become more health-conscious?	健康・ライフスタイル	動名詞・分詞・比較 様々な問題について自分の考えや意見を書いたり伝えたりしよう。	○	○	○	16	
～	7 How many clothes do you buy?	ファッションと環境問題		○	○	○		
11	8 How do you decide which products to buy?	フェアトレード		○	○	○		
第3回考査				○	○		1	
12	9 A variety of ways to improve your English	教育・学びの多様性	関係詞・仮定法 ディスカッションに挑戦しよう	○	○	○	16	
～	10 How can we become foreigner-friendly?	外国人観光客		○	○	○		
第4回考査				○	○		1	
3	How can we become foreigner-friendly?	在留外国人との共生	1年間のまとめ	○	○	○	4	
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている		情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている		授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる			
評価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）		授業中に課された課題考査（英作文） パフォーマンステスト		ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出			

家庭科「家庭基礎」

1. はじめに

家庭基礎では生活を取り巻く環境の変化や、多岐にわたる社会の変化。生活に関わる法律や制度の改正など、扱う内容も幅広いものになります。ひと昔前の「家庭科＝料理と裁縫」という意識では学びを深めることが難しい科目です。自立した大人となるための知識やスキルを身につけ、現状の課題や改善策について考え主体的に学んでいきましょう。

本校では、家庭科の『家庭基礎』が1年生の必修科目となっています。3年間にクラス単位で家庭科の授業を受けるのは、1年限りのわずかな時間です。40人程の大人数での受講です。座学が中心になりますが、調理実習や衣生活実習も行う予定です。安全・安心な授業にするためには生徒皆さんの協力が必要となります。学び合う、教え合うコミュニケーションも大切にしながら取り組みましょう。

2. 学習目標

人の一生と家族・福祉、食衣住、消費生活などについて学ぶなかで、基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、国際化・情報化が進展し生活様式の多様化が進む現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけよう。

3. 使用教材

教科書「家庭基礎 ～自立・共生・創造～」東京書籍

資料集「Super Live View」東京書籍

学習ノート「家庭基礎学習ノート」東京書籍

4. 評価方法

考查点・学びに向かう姿勢・出席状況・提出課題（レポート）・作品等により総合的に判断します

5. シラバス

科目	家庭基礎	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	1	学科	普通科 理数科
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造	副教材等	Super Live View家庭科 資料+食品成分表成分表 家庭基礎 学習ノート						
学習の目標	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、社会との関わりについて理解する。 ・社会における生活の中から問題を見だし理論的に表現し、課題を解決する能力を養う。 ・調理実習や衣生活実習などを行い、仲間と協働し主体的に創造する実践的な態度を養う。 ・定期考查を利用して、学習の自己評価を行う。 								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6 7 8 9	家族・ 社会と の共生 生活の 自立	人の一生と家族・家庭及び福祉について基礎的な理解を図り、係わる技能を身につける。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想、表現し、解決する力を養う。	・自分らしい人生をつくる ・子どもと共に育つ ・高齢社会を生きる ・共に生き、共に支える ・食生活をつくる		25

第2回考査

9 10 11 12 1 2	生活の 自立	人の一生と衣食住、消費生活、環境などについて基礎的な理解を図り、係わる技能を身につける。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想、表現し、解決する力を養う。	・食生活をつくる ・衣生活をつくる ・住生活をつくる ・経済生活を営む	調理実習 衣生活実習	33
-------------------------------	-----------	---	--	---------------	----

第4回考査

3	生活の 自立	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解し、実践する力を養う。	・消費生活と環境		4
---	-----------	-------------------------------------	----------	--	---

評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活の営みに係わる基礎的な知識と技術を身につけている。	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、見通しをもって課題を設定し、解決策を構想し、根拠に基づいて理論的に表現している。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分の家庭、地域生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。
評価方法	提出課題 復習テスト 定期考査	提出課題 定期考査	発言・質問、出欠状況 提出課題 定期考査

6. 留意事項

- (1) 調理実習では、各自エプロンと三角巾（タオル・手ぬぐい可）を持参してください。
- (2) 食物アレルギーがある人は、教科担当者へ事前に申し出てください。

令和6年度シラバス【理数探究基礎】

長野県伊那北高等学校

科目	理数探究基礎	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	理数探究基礎 (数研出版)	副教材等	なし						
学習の目標	<p>(1) 理数探究基礎に関する基本的な知識を身につけるとともに、科学が生活と密着していることを理解する。【知識・技能】</p> <p>(2) 理数探究基礎に関心を持ち、自然現象や数学について、科学的な観点から問いを見出すことができる。【知識・技能・主体性】</p> <p>(3) 問いを検証可能な仮説として立案し、検証方法を吟味し、適切な方法で表現することができる。【思考・判断・表現】</p>								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<p>(1) 一年間を通して、教科書を参考にしながら研究の進め方を学ぶ。科学と自己との関わりから課題を見出していく。</p> <p>(2) 見出した課題について、さまざまな媒体から情報を入手し、得られた情報を精査・分析する。情報のリテラシーを学び、価値ある情報を得て研究ができるようにする。</p> <p>(3) 精査・分析して得られた結果を発表しあい議論する中で、最適解を模索する。</p> <p>(4) 校内研修・校外研修の場を利用して、最先端の研究を学ぶ。</p> <p>(5) 抽象化と具体化のプロセスを通じて知識と思考の質と量を高める。</p>								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 5 6	STEP1 研究とは何か	研究とは何か 課題の設定	・理数探究基礎の流れ		理数物理、理数生物との教科(科目)連携をする。	8			
7 ～ 11	STEP2 生命科学を通して学ぶ理数探究基礎	研究の基本的な手法を学ぶ	・先行研究調査 ・実験計画を立てる ・実験実施、データ整理、考察 ・発表		理数物理、理数生物との教科(科目)連携をする。	14			
11 ～ 1	STEP3 様々な分野を通して学ぶ理数探究基礎	数学・環境科学を通して研究に取り組み、基本的な手法を学ぶ	・先行研究調査 ・実験計画を立てる ・実験実施、データ整理、考察 ・発表		理数物理、理数生物との教科(科目)連携をする。	8			
2 3	STEP4 発表・振り返り	まとめ 来年度の計画	・効果的なプレゼンの方法 ・来年度の計画			2			
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		・理数に関わる学習対象について、知識を身につけ、総合的見方・考え方ができているか。	・理数に関わる課題について、適切な問いを立てているか。 ・研究の成果について、わかりやすく的確にまとめ、発表できているか。		・情報の収集や分析を、関心を持って主体的に行っているか。				
評価方法		<p>・口頭発表による評価。</p> <p>・レポートなどを集積したポートフォリオによる評価。</p> <p>・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p> <p>・出席状況。</p>							